# かさまつの子

笠松町道徳教育連絡会議

## 生き生きとした瞬間 ～それは輝き～

「ありがとうございました」

生き生きとした声が会場内に響きわたる。

「リバーサイドカーニバル２００４・ポンはぜ菓子実演販売」の「地域」というステージの中で子どもたちと共に働いた楽しいひと時でした。

私たち親の世代は、神社や広場に来るポンはぜ菓子づくりのおじさんを見ると、「ボォーン」という爆発音と香ばしさに誘われ、興味深く駆け寄り、さっそく家からお米を持ち出して、いっぱいの米菓子にしてもらったことを思い出します。

「楽しさ」の中から生まれる感動が今、大人になってみると、こんな感動をもたらす要素が含まれていることに気付かされます。

テント内は「ポンはぜ菓子」の香ばしい匂いと機器の余熱で満々としていました。味付けの攪拌作業は、力仕事で「もういいか」「よし、交代しよう」と協力し、助け合って完成品にする。そして、お客さんの様子を伺いながら手早く詰め、「はい、お待ちどうさま」と声が出る。自分たちが作ったものを売ろうという気持ちが沸き、「いらっしゃいませ」「はい、いらっしゃい」とトーンが高くなり、元気の良さから活気が溢れる。途中、客足が止まると「どうしよう、私たちで売りに出ようか」とポンはぜ菓子の看板を持ち出して会場内のアナウンス（宣伝）を始める。一袋十円以上で販売した結集が数万円になり、地域社会のために役立つよう寄贈出来たことに充実感を感じました。すべて自分たちで考え、自主的に行動する姿が素晴らしく、工夫して対応する力（姿勢）は、とても逞しく感じられたことを覚えています。

中学生という多感な時、素直な気持ちで、自主的に物事に立ち向かう姿勢の大切さについては、家庭・学校生活を通じて学ぶことですが、町の事業に参加し、地域の多くの皆さんとコミュニケーションを持って学んだ体験は、とても有意義なものであったと思います。

豊かな感性を持つ子どもたちにとって、素晴らしい出会いと体験こそが、大人へと成長する「糧」となることでしょう。

子どもたちの世界は「大人社会の縮小版」と言われますが、この町の子どもたちを守り育てていただける「地域（まち）」があることに、大変感謝します。

**笠松中学校ＰＴＡ**
**会長　葛谷昌彦**

---

教育委員会だより

## 豊かな体験が 豊かな心を育む

かつて私が幼い頃に遊んだ川は、現在、道路の下の排水路となっています。豊富な生き物は消え、「どぶ」と呼ばれて、人から疎ましがられる存在になってしまいました。

「今の子どもたちの課題」を話題にするとき、最後に行き着くところは、周りの自然や社会・人との関わりの少なさです。当然、関わりの少ないものに愛着を感じることはありません。「どぶ」同様、周りにあるものの大切さに気付かず、関わることに面倒さすら感じる子が多くなっているように思います。

先日、「豊かな体験活動」全体会が、〝ボランティア活動と豊かな心〟をテーマとして開かれました。

竹林整備の活動に取り組んでおられる「風と土の会」の小野賢悟さんからは、竹細工を教えた中学生が、その活動を下級生に伝え、更には整備の作業まで手伝いたいと申し出る子まで現れたという事例を紹介していただきました。

また、岐阜地域振興局の三本木隆さんからは、ナホトカ号の重油流出事故の際にボランティアとして参加し、学校に戻ってから校内にボランティア活動を立ち上げた中学生のお話を伺いました。

自分が直接関わる体験を通して、彼らは自分たちの地域・社会を見直し、守るべき活動や人との関わりを築き直そうとしたわけです。ボランティア活動を通して、感じ、学んだことが、彼らに豊かな心を育んだといえるでしょう。

今の時代も、子どもの本質は純粋です。未来を担う心豊かな後継者作りに向けて、関心を持つきっかけと、直接関わる体験の場をきちんと与えていくべきなのは、他ならぬ我々大人です。身近なところから、何か子どもと共に出来ることを始めてみてはどうでしょうか。